

## siecle 608HM

HIGH BEAM ASSIST SYSTEM

この度は弊社製品<シエクル608HM>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品は4灯式ヘッドライトのロービームに運動しハイビームを減光状態で点灯させるシステムです。夜間の安全性を高める目的で開発した商品です。なお本体ディップスイッチの切り替えにより簡単にノーマル状態に戻すことが可能です。（\*車検時はディップスイッチによりノーマルに戻すことを推奨致します）

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

**お願い！** 本製品は性能向上などの理由により取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はお手数ですが当社ホームページを閲覧のうえ、最新版の取り扱い説明書を参考に取付作業、調整をおこなって下さい。

**注意！ 使用・調整はおお客様の自己判断、責任においておこなって下さい。この製品及び付属品の誤った使用や改造をおこなった場合、その使用中に生じた故障その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。**

**△ 危険** この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、本人または第三者が死亡または重傷を負う可能性が想定される差し迫った危険な状況を示します

- 本製品は精密部品です。水のかかる場所や水のある場所で作業をしないでください。壊れる原因となります。
- 本製品および付属品は確実に固定し、運転の妨げになる場所・不安定な場所に取り付けしないでください。運転に支障をきたし事故の原因となります。
- 車両・製品より異音、異臭などの異常が発生した場合、ただちに使用を中止し専門業者にて点検、整備を行って下さい。修理等に関してはお客様ご自身で対処すると怪我などの恐れがあり危険です。必ずプロの知識を持った専門業者へ依頼してください。
- 本製品の装着により車両に異常が出たままの状態で行くと、予期せぬトラブルを誘発するばかりでなく、事故を招く可能性があります。性能が損なわれている場合は専門業者にて点検、整備を行ってください。
- 運転中は走行中に本製品の操作を行うと事故の原因となる恐れがあり大変危険です。
- 本製品の加工・分解・改造などは一切行わないでください。事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。加工・分解・改造等の形跡が見られた場合、クレーム・修理の対象外とさせていただきます。
- エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。必ず各部品の温度が下がってから作業 をはじめてください。

**△ 警告** この表示を無視して誤った取り扱い・作業を行うと本人または第三者が軽傷または中程度の傷害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します

- 本製品は車両電源がDC12V車用です。12V/24V兼用車または、24V車には使用しないで下さい火災の原因となります。
- 本製品の取り付け時はエンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないように注意してください。ショートなどにより火災、電装品、エンジンの破損の原因となります。使用しない配線などは、絶縁テープを巻くなどで必ず絶縁対策を行って下さい。
- カブラを外す場合には無理にハーネスは引っ張らず、必ずカブラを持って取り外してください。ハーネスが破損すると、ショートなどにより火災、電装品の破損、焼損の原因となります。また製品の故障の原因となります。

**△ 注意** この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、物質損害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します。

- 本製品の取り付けは専門業者に依頼してください。間違った装着や使用方法により車両装備品およびエンジン破損につながる恐れがあります。
- 本製品は精密部品ですので装着前に落下させたり装着時に無理な力を加えないでください。作動不良を起し、車両を破損させる恐れがあります。
- 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損、紛失しないように大切に保管してください。弊社では、取り付け作業による物的損害の責任を負うことが出来ませんので慎重に作業を行ってください。
- 本製品は精密部品ですのでハーネスの取り回しで強力な信号、ノイズの発生しやすい箇所は避けてください。誤作動する恐れがあります。
- 本製品に付属するハーネスは耐熱部品ではありませんので高温部を通す場合は必ず熱対策をおこなってください。

**【取り付け方法】****<取り付け作業の前に>**

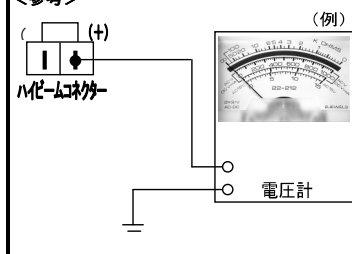
- ◎適合表にてハイビームがマイナスコントロールであることを確認してください。適合表に記載の無い車両の場合は下記の<配線方法> → 「ハイビームのコントロール方式の確認方法」を参照してください。
- \*プラスコントロールの車両に装着しますと本体が破損します。その場合はクレームの対象にはなりません。
- ◎ハイビームのプラス側、マイナス側を確認してから作業をおこなってください

**■工具**

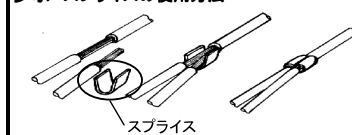
- ◎取付作業には配線加工をしますので圧着ペンチ、絶縁テープ、電圧計テスター等が必要です。
- \* 誤配線・接触不良等による本体破損はクレームの対象にはなりませんので慎重に取り付けてください。
- ◎ヘッドライト・バンパー等をはずして作業したほうがスムーズに取り付けがおこなえる場合があります。判断してから作業をおこなって下さい。

**<取り付け作業の後に>**

- ◎本体はエンジンルーム内の熱、水のかからぬ場所へ両面テープにより固定して下さい。
- ◎ハーネス類は運転の妨げにならないようまとめて本体を固定して下さい。

**<配線方法・注意他>****<参考>****【ハイビームのコントロール方式の確認方法】**

- ハイビームの左右どちらかのコネクタを抜きます。
- ライティングスイッチをロービームにしてコネクタの電圧にて判断して下さい。
- プラスコントロール車は0v
- マイナスコントロール車は12vが発生
- \* プラス側にて判断して下さい。
- 注意！ 輸入車は上記方法にて判断できない場合があります。

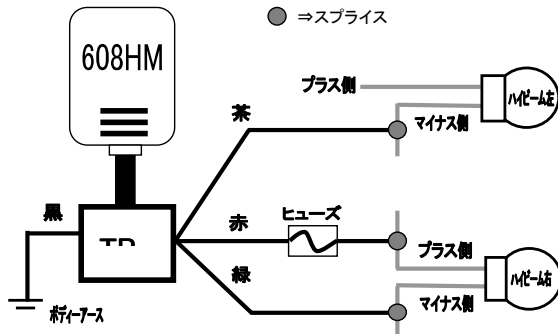
**参考/スプライスの使用方法**

- \* 配線の適当な場所の被服を5mm程度むきます。
- \* S608HMの配線の先を10mm程度被服をむき、車両配線へ巻きつけます。
- \* スプライスを接合部にあて、圧着ペンチでかします。
- \* 絶縁テープにて接合部を保護します。

# ★車両により2種類の取り付け方法があります。車種を確認の上、作業をおこなってください。

【配線図1】 マイナスコントロール全車（ホンダ車&ダイハツCOPEN除く）

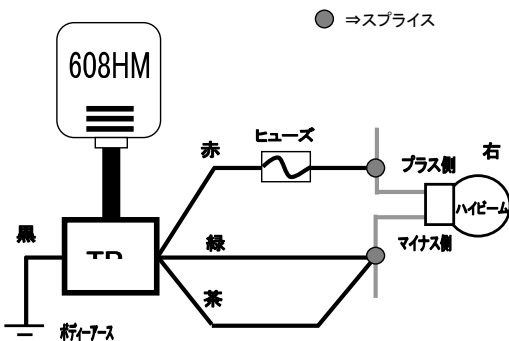
注意！ 作動中はハイビーム警告灯が薄く点灯してしまふことがありますがあらかじめご了承ください。



- ①右ハイビームのマイナス側の配線へ608HMの緑線をスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)
- ②左ハイビームのマイナス側の配線へ608HMの茶線をスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)  
★緑線と茶線の接続関係は逆でも可  
(例. 右ハイビームに茶線 左ハイビームに緑線)
- ③608HMの赤線をハイビームのプラス線へスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)
- ④608HMの黒線をボディーアースして下さい。
- ⑤配線は電動ファン、エンジン部品に触れぬようにまとめて下さい。

【配線図2】 マイナスコントロールのホンダ車&ダイハツCOPEN

注意！ 作動中はハイビーム警告灯が薄く点灯してしまふことがあります。ご了承ください。



- ①右ハイビームのマイナス側の配線へTR-BOXの緑線と茶線をスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)  
注意！ 左側の電球には接続しません。
- ②TR-BOXの黒線をボディーアースして下さい。
- ③TR-BOXの赤線を右ハイビームプラス線へスプライスにより接続して下さい。(ハンダ付け推奨)
- ④配線は電動ファン、エンジン部品に触れぬようにまとめて下さい。

＜参考＞ プラス側/マイナス側の判断方法

- ハイビームの左右どちらかのコネクタを抜きます。
  - 抜いたコネクタにテスターをあて判断して下さい。  
\* ロービームにすると12Vが発生します。  
\* ハイビームにすると電圧が下がるほうがマイナス、下がらない方がプラスになります。
- 例. ホンダRA6  
プラス→赤/黄、赤/白  
マイナス→赤/青

【調整方法】

＜動作確認＞

- ディップスイッチの『1』をON、『2』をOFFにしてください。(ON！側がONで、反対側がOFFです)
- イグニッションスイッチをONの位置にし、ライティングスイッチをLoにしたときに動作します。(減光状態にて点灯)

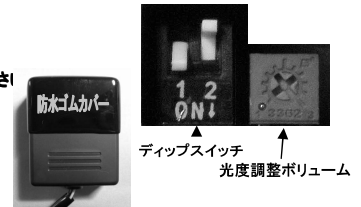
＜減光状態調整＞

注意！ 昼間に光度のボリューム調整をすると明るすぎる調整になってしまいます。必ず調整は夜間におこなってください

- 減光状態の光度をボリュームにより調整出来ます。精密ドライバーにて調整をおこなってください。
- ボリュームを右に回すと明るくなり、左に回すと暗くなります。
- 適正位置へボリュームを調整して下さい。(必ず夜間調整！)

注意！ TR-BOX がかなり高温になる場合はボリュームを左側に回して使用して下さい。

調整終了後、付属の防水ゴムカバーをパネル面に被せ、防塵処理をおこなってください。



【本体の固定の仕方】

- エンジンルーム内で熱・水の影響の受けにくい場所へ両面テープにより固定して下さい。設置場所は埃や水分、油分を脱脂してから固定してください
- 必ず調整面を上にして固定して下さい。平面もしくは水平に固定されると水の混入する可能性が高くなり本体破損につながります

注意！ \* 608本体TR-BOXも発熱します。外的高温部分の取り付けによっては本体破損をまねく可能性があります。慎重に取り付け場所の選択をおこなってください。

\* 本体をバンテージ、スポンジ等にて巻きつけることは絶対にさけて下さい。なるべく本体が冷えるように考慮した取り付けをおこなってください。



＜ノーマル復帰＞

- ディップスイッチ『2』をON状態にするとノーマル状態になります。

注意！ ノーマル状態とは608HMを装着しない作動状態です。

＜車検について＞

ハイビームアシストシステムはロービーム運動の為、車検灯としての代用は出来ませんので車検時などでは＜ノーマル復帰＞でご使用下さい。

＜トラブルシューティング＞

- ポジション点灯しない  
→608HMから出ている赤線とポジションランプ線間の接触不良が考えられますので再度確認してください  
→608HMから出ている黒線のアースが接触不良をおこなっていますので塗装面の固定されている場合は塗装をはがすなどするかアースポイントを変更してください